

<第8回 利益相反管理委員会(2019年5月24日開催)>

報告・審議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ FD 取組方針、KPI、行動計画の振返りと改定に向けた考え方について ✓ FD の高度化、利益相反管理・顧客保護等管理の状況について
主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「消費者志向自主宣言」のような取り組みによって、販売担当者にフィデューシャリー・デューティー・CS(お客さま満足)を浸透・定着させるのは有効な取り組みである ✓ 「消費者志向自主宣言」に表される「フィデューシャリー・デューティーとCS(お客さま満足)の融合」は方向性として望ましい ✓ お客さま本位の業務運営の浸透について、インセンティブ等の観点でさらに分析することが望ましい ✓ コンダクトリスクへの世の中の関心の高まりを踏まえ、利益相反管理を中心にコンダクトの健全性についても審議してはどうか
対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 6月に「消費者志向自主宣言」を公表

報告・審議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 信託業務 PT の活動について
主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金融審議会市場ワーキング・グループ「高齢社会における資産形成・管理」報告書が公表されたこともあり、高齢社会での取り組みにつき信託銀行への期待も高まっている ✓ 高齢者保護という観点で信託銀行がアレンジャーのような役割を目指してもよいのではないか ✓ 信託において、リスクシェアに関する具体的なビジョンを定めることができれば望ましい

報告・審議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2019年度(7月以降)の利益相反管理委員会のテーマ等について
主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コーポレートガバナンスの議論の進展等を踏まえ、信託や運用業務のガバナンスについても改めて審議してはどうか
対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2019年度の利益相反管理委員会のテーマとして審議開始

<第9回 利益相反管理委員会(2019年7月5日開催)>

報告・審議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ FD(フィデューシャリー・デューティー)に関する取組方針、KPI(成果指標)、消費者志向自主宣言等について
主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 昨年度のフィデューシャリー・デューティーに関する取組状況等を踏まえ、FD 取組方針、成果指標等を2019年6月に改定。特に三井住友信託銀行の投資信託販売態勢については、外部評価機関からも高評価を受けている。但し、公表物に係る「見やすさ・分かりやすさ」の観点からの改善や、社内発信の更なる明確化等、取り組みは不断に継続すべき ✓ 2019年6月に策定・公表した「消費者志向自主宣言」には、フィデュー

	<p>シャリー・デューティーと CS(お客さま満足)双方の観点を含む方針・取り組みが表れていると考えられ、連携の下の推進につき引き続き検討することが望ましい</p>
対応状況	<p>✓ 改定等に際し公表物の「見やすさ・分かりやすさ」の面の改善に一層留意するとともに、フィデューシャリー・デューティー実践等当社の目指す方針に係る社内発信・推進の取り組みを継続</p>

報告・審議テーマ	<p>✓ 2019 年度の諮問事項について</p>
主な審議内容	<p>✓ 次期中期経営計画の策定を見据え、諮問事項に係る検証を進めてまいりたい</p>

報告・審議テーマ	<p>✓ 信託業務 PT の活動状況の総括報告に向けて</p>
主な審議内容	<p>✓ 信託に関連し、様々な着眼点から今後の信託ビジネスに関する中長期的な検討・分析・提言に際しての着目点につき審議する信託業務 PT につき、当初想定の設定期限以降も継続して活動すべきとの執行側意見あり</p>
対応状況	<p>✓ PT 活動を継続実施。信託業務に係る検討、社内展開等に取り組む</p>

報告・審議テーマ	<p>✓ コンダクトリスクの管理について</p> <p>✓ 信託のガバナンスについて</p>
主な審議内容	<p>✓ コンダクトリスクに関しては、海外の目線等も参考に議論を進めることが望ましい</p> <p>✓ コンダクトリスクの管理につき検討するうえでは、ベストプラクティスといった高い目線を方向性として持つことが望ましい</p>
対応状況	<p>✓ 態勢高度化に係る検証に際し、国内外の動向を調査。海外規制動向につき次回利益相反管理委員会にて報告</p>

<第 10 回 利益相反管理委員会(2019 年 11 月 22 日開催)>

報告・審議テーマ	<p>✓ 三井住友信託銀行の行動計画の振返りとグループ各社のモニタリング内容について</p> <p>✓ 利益相反管理・顧客保護等管理の状況について</p>
主な審議内容	<p>✓ 三井住友信託銀行における業務につき、お客さまについて知ること等にさらに着目することを通じて、一層の高度化を図ることができるかもしれない</p> <p>✓ 信託銀行が業務を通じ「社会の役に立っている」様を、より分かりやすく発信していくことが望ましい</p>

報告・審議テーマ	<p>✓ コンダクトリスク管理高度化に向けた検討状況について</p>
----------	------------------------------------

主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンダクトリスク管理に関連し、当社に寄せられる期待の水準は情勢等に応じ変動するものであり、この変動を捉えることが重要 ✓ コンダクトリスク管理について社内に浸透させるためには、管理の目的の共有や、業績評価項目としての取り入れ、また望ましいとされる具体的な事例の例示等が有効と思われる
--------	--

報告・審議テーマ	✓ 海外法令を踏まえた利益相反管理態勢の検討について
主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外の規制動向は金融審議会等でも例示されるところであり、留意することが望ましい ✓ 海外規制における考え方を踏まえ、前向きに態勢高度化を図る方向性は望ましい

報告・審議テーマ	✓ 信託業務 PT の活動状況について
主な審議内容	✓ 信託業務 PT 継続後の活動状況につき審議

<第 11 回 利益相反管理委員会(2020 年 1 月 10 日開催)>

報告・審議テーマ	✓ コンダクトリスク管理高度化に向けた検討について
主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新たな指針策定検討にあたっては、実践や分かりやすさの観点から、表現や他指針との関係等につきよく検討すべき ✓ 管理の枠組みを定めるだけでなく、研修等で浸透を図っていくことが重要
対応状況	✓ 表現や他指針との整理を含め、分かりやすさという観点での検討・議論を重ねていく

報告・審議テーマ	✓ 顧客本位の業務運営の更なる高度化、対顧客領域品質コントロール強化について
主な審議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本件のような取り組みは、着実に進めていくことが望ましい ✓ 進める上での留意点として、品質の測定のためにお客さまからの評価を収集するにあたっては、お客さまや従業員にとって過度な負担とならないようすべき ✓ 一般に評価収集手法は必ずしも十分には高度化されておらず、収集したデータの活用の際にはこの点を踏まえ留意すべき
対応状況	✓ 限定された範囲での試行、また外部知見の活用等を通じ、丁寧に進めていく

報告・審議テーマ	✓ 他社の事例研究に関する議論・検討
主な審議内容	✓ お客さま担当期間のルールも踏まえて、どのように牽制を利かせるかが

	<p>重要</p> <p>✓ お客さまとの長期的な関係は不正等に結びつく懸念がある一方、お客さまへの最適な提案を可能とする面もある。インセンティブやコンプライアンス管理態勢等複数の手法を組み合わせ管理すべき</p>
対応状況	<p>✓ 次回以降の利益相反管理委員会にて、当社の対応状況を報告</p>

報告・審議テーマ	<p>✓ スチュワードシップ・コード改定の方向性を踏まえた対応について</p>
主な審議内容	<p>✓ スチュワードシップ活動の高度化においては、信託銀行グループとしての特性を踏まえ議論することが望ましい</p>
対応状況	<p>✓ スチュワードシップ活動に関連し、総幹事業務に留まらない信託銀行の機能につき整理</p>

以上